



2019・9・1

第 349 号

101-0065 東京都千代田区  
西神田 2-5-7 神田中央ビル 303

TEL 03-3221-5075

FAX 03-3221-5076

## 9条への思いを安倍は辞めよの草の根の声に

### 9条守る意見広告に大きな反響

【広島県／第九条の会ヒロシマの会】 第九条の会ヒロシマは、8・6意見広告を今年も掲載することができました。昨年を300も上回る2517（8月7日現在）の団体・個人のご賛同をいただきました

今年の意見広告では、平和を願い、行動する市民として、「黙らない」ことを強く訴え、政治を考え、おかしいことはおかしいと声をあげるきっかけにして頂きたいと思いました。掲載紙は、朝日新聞朝刊です。大阪本社版に全15段と、その他全国には全5段を掲載しました。

8月6日早朝、原爆ドーム付近でカラー版を配布しました。（新聞に掲載したものはモノクロです）世話人や会員さん、いつも賛同してくださる8・6ヒロシマ平和のつどいのメンバーと一緒に配布しました。

＜寄せられた賛同の一言から＞ ありがとうございます。どんどん嫌な国になっていく現実には、1人で毎日のニュースを見ては潰されそうになっていましたが、今日の紙面で、「勇気ある方々がまだこんなにいるんだ」と嬉しかったです。（「第

### 憲法審の目的は改憲案の作成

10月に開かれる臨時国会に向けて、安倍首相をはじめ自民、公明、維新の各党は憲法審査会開けの声を高めています。

参院選の運動期間を通じて安倍首相は「議論を前に進める政党か、議論すら拒否する政党か」を主要な選択肢の1つとすることを強調しつづけました。自民党からは、憲法審査会を開かないことは「職場放棄」の声すら出されています。

しかし憲法審査会は、一般的に憲法について論議する場ではなく、「憲法改正原案、日本国憲法の改正に係る発議または国民投票に関する法律案等を審議する」（衆院憲法審査会規程）場です。

参院選の結果、改憲勢力は3分の2議席を下まわり、自民党も参院で過半数を割ったことで安倍首相らの主張を国民は受け入れなかったといわねばなりません。

九条の会ヒロシマ」103号)

### 平和を願って恒例の鐘つき

【金沢市／寺町台九条の会】 寺町台九

条の会は15日、臨濟宗少林寺の境内で終戦の日恒例の「平和の鐘つき」を行い、約30人が参加しました。今年で14回目です。

戦時中、金属不足のため鍋や釜や仏具、梵鐘も供出させられました。金沢市によると、県内1500の寺の中で70の梵鐘が供出を免れ、その1つが少林寺の梵鐘です。

挨拶に立った寺町台九条の会代表の宮地芳男さん(93)は、「戦争は何もかも失ってしまう。平和を願い、戦争への道を食い止めるためにも、思いを込めて鐘をついてください」と述べました。

猛暑の中、参加者はハンカチで汗を拭きながら、「平和を守れ」「憲法を守れ」と声をあげ、順番に鐘をつきました。

## 親と子で平和を考える

**【岐阜市／長森・日野九条の会】** 岐阜市で毎年恒例の「親と子の平和まつり」(12回目)が11日に開かれ、盆休みで実家に戻ってきた家族や、学校の案内ビラを見た生徒ら約80人が参加しました。主催は長森・日野九条の会で構成する実行委員会。市教育委員会が後援し、地元の小・中学校、保育園・幼稚園にも案内が出されました。

世話人の河野克暢さん(80)が、「参院選で改憲勢力が3分の2を割り込んだことは一番よかった。岐阜でも空襲があったことを親子で話し合ってほしい」とあいさつしました。

「平和をうたう」コーナーでは、女性コーラス「コスモス」(15人)が「子鹿のバンビ」「背くらべ」などの童謡メドレーや、「ドレミの歌」などを元気よく歌いました。広島原爆のアニメ映画が上映され、原子爆弾

の閃光と熱線を浴び、腰かけていた人の姿が一瞬のうちに消え去り、黒く残った影に戦争の怖さを知らされました。

劇団風の子が「むかしあそび」を披露。保育園の案内ビラを見て初めて参加した親子は、「お手玉など、お兄さん、お姉さんの早い動きが格好良かった」と語りました。

## 子どもにもわかる言葉で憲法を紹介

**【愛知県東郷町／東郷9条の会】** 東郷9条の会は8月25日、第12回「親と子の平和のつどい」を開催しました。家族連れなど60人以上が参加し、家族連れから高齢者まで一緒に楽しみました。

今回は、名古屋を中心に創作劇や親子劇などを公演する「劇団名芸」が出演。パネルシアター「ねこのおいしゅさん」では、ネコのもとに鼻づまりのゾウや寝不足でくまができたクマ、肩こりのキリンなど次々に訪れます。参加した親子たちは、病気を治すためにネコと一緒に頑張って「ニャー！」と元気いっぱいなかけ声。動物たちのかけ合いに会場は笑いに包まれました。

劇団員の広瀬達弥さんは、芸人・松元ヒロさんの一人芝居「こんにちは！憲法くんです！」を上演し、日本国憲法の成り立ちや権力の暴走を抑える仕組みなど子どもたちにわかりやすく紹介。上演後、広瀬さんは「戦後70年の歴史で日本は戦争しなかったが、これこそが憲法の誇りであり理想。戦争で犠牲になるのは、いつも子どもたちです。理想と現実が合わないなら、現実を合わせる努力が必要」と話しました。

会事務局の三宅暁良さんは「参院選で改憲勢力が3分の2を下回ったのは、私たち

の運動の成果。世界にはたくさんの国があり、それぞれ大切なものがある。軍事や経済で押さえつけるのではなく、違いを尊重しあい平和を築き、戦争に近付かないようにしなきゃいけない」と語りました。

### 337回を迎えた<サロン九条>

【岐阜県／岐阜・九条の会】 「岐阜・九条の会」主催<サロン9条>は、2004年2月第1回例会が行われ、この8月27日、第337回を迎えました。今回から会場が、日本キリスト教会の会議室に変わりましたが、幸い今までと同じく、こちらもご好意で無料使用させて頂くことになりました。

今回は、「アウシュヴィッツを訪ねて」と題した話題提供を、木俣光江さんからして頂き、意見交換しました。初めての参加者も多く、32名でした。

木俣さんは、まずドイツ軍によって壊滅的な破壊にあった首都ワルシャワの爪痕と復興の様子を、いくつもの写真を通して紹介されました。

アウシュヴィッツ収容所についても、数多くの写真と資料にもとづいて詳しく説明されました。中でも目を引いたのは収容者たちの遺品で、小さな靴の山（子ども）、義足の山（障がい者）、死体を焼いて出る脂で作ったローソクなどで、虐殺の残酷さを直接物語っていました。

木俣さんが話された中で印象深かった一つは、「初めに言葉があった」という話です。これは「ユダヤ人はドイツから出ていけ！」という言葉から虐殺が始まったということで、現在日本のヘイトスピーチにつなげて指摘されました。

意見交換では、この指摘を受けて、朝鮮人差別は許されないとの声や、相模原市で起きた事件の背後にある優性思想の問題を指摘する意見が相次ぎました。さらに、障がい者を抱えている人から、戦争になると真っ先に犠牲になるのは障がい者で、すべての人のいのちを大切にしなければならぬと強調され、参加者全員の共有する考えになったように思われます。

最後に、司会者（吉田）から、憲法の前文に明記されているように、戦争は国民ではなく政府（国家権力）が「起こす」ものであり、安倍政権による改憲はやめさせるように力を合わせましょう、と呼びかけがありました。（吉田千秋（「岐阜・九条の会」代表世話人）

### 安倍首相が辞めるまで続ける

【長野県伊那市／東春近9条の会・竜東9条の会】 東春近9条の会と竜東9条の会は8月19日、合同で朝7時半から通勤など車の運行の多い場所でスタンディングを実施しました。「憲法が生きる日本へ」「安倍さんのウソとゴマカシを許さない」「みなさん一緒に憲法を守りましょう」など手書きポスターや横断幕を持参し、17人でアピールしました。

伊藤敬子さんは「9条改憲をあきらめない安倍政権が続く限り、宣伝を続ける」意気込みを語り、有賀美鈴さんは県内世論調査で改憲反対が多くなり、「毎月続けていることが力になっている」と語りました。

別の男性は「地域訪問で『立っていましたね』と言われ、宣伝が浸透していると感じる」と語りました。

毎月3日も合同で、商業施設の近くで午後1時からの宣伝を継続中。

## 新会員迎え自民改憲案を学習

【横浜市青葉区／青葉台地域九条の会】

<定例駅宣> 7月9日の駅宣は選挙直前で、選挙活動と重なり参加者が4人しかいない寂しい駅宣になった。しかし、当初からこの日の駅宣はとにかく選挙に参加することがいかに現実の問題解決に必要なかということと呼びかけ、特に10代20代の若者に声をかけることに集中したので特に違和感はなかった。

<月例会> 7月24日、新規加入の隅崎さんを含めた16名の参加者で開催。選挙後であったので、今回の選挙結果について多角的に議論したいところであったが、選挙についてはあまり議論できなかった。司会者として反省あります。

学習は「東京新聞」の「自民改憲条文案を点検」（6月21日付）を山下さんが報告してくれて討論した。自民改憲4条項はいずれも我が9条の会として認めがたいものであることは明らかである。そして自衛隊明記の真のねらいは、安倍改憲の許しがたい憲法破壊、軍事大国化であり、断じて許しがたく、ますますの運動をしようと思ひかけたい。石畑さんが今回も丁寧に解説や意見を文章化してくれたので大いに参考になった。

市ヶ尾駅で夫人と2人で駅宣をやってきたという若い隅崎さんが入会され、個人として駅宣を積極的にやりたいとのことで、8月2日、市ヶ尾で6人が集まり署名活動をし、勇気づけられた。

（「青葉台地域九条の会ニュース」NO143）

## 参院選結果で今後の政治を論議

【新聞OB「九条の会」】 新聞OB「九条の会」恒例の「納涼の夕べ」が7月23日、東京・文京区民センターで開催されました。

2日前に参議院議員選挙（改選数124議席）が終わったばかりのタイミングで「参院選の結果と今後の政治情勢」について講演した倉重篤郎毎日新聞記者は「ほぼ予想どおりの結果で、自公の与党は堅調に議席の過半数を確保したが、改憲発議に必要な3分の2には届かなかった。安倍政権が目ざす改憲は難しく、レガシー（功績）なしに退陣の可能性もある」と語りました。

この日は会員ら42人が参加。芳尾孝治事務局長（内外）が「納涼の夕べ始めて以来の多数が参加、終わったばかりの参院選を総括、今後の改憲阻止の闘いに備えたい」と開会あいさつ。

### <よせられた「ひと言」より>

いよいよ北方四島で戦争を口走る国会議員が出る時代になってきました。でも不思議に思っているのは、維新批判はあるものの、公明党批判が無いのは合点がいきません。私に言わせれば、今の公明党は党ではなくて自民党公明派だと思っています（私だけでしょうか？）。推進母体である創価学会員の中には、公明党、自民党に疑問を持っている人もいます。「戦争する国にするために」推し進めている今の政治のあり方を1人でも多くの方に考えていく手段はないものか？ 途方にくれています。

西山公雄（毎日）

（「新聞OB『九条の会』」第116号）